





病害虫発生予察情報予報第 7 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	10 月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
普通期 水稻	トビイロウンカ	並	やや多	157~179	
	特記事項 1. トビイロウンカ 一部の現地圃場及び農業試験研究センター無防除田において坪枯れの発生を認めた。晩生品種においては、幼虫ふ化揃い期と考えられる 10 月 1 半旬頃に各圃場での発生状況を確認し、多数の寄生がみられる場合には早急に防除を行う。 2. コブノメイガ もち品種や葉色の濃い圃場では、本虫による被害が多くなる場合があるので、発生状況を確認し、防除を行う。				
大豆	ハスモンヨトウ	多	多	202~203 208~210	 ハスモンヨトウ
	注意報第 2 号を参照				
	カメムシ類	多	多	203~204 210~211	
特記事項 1. ハスモンヨトウ 本年は、本虫の発生量が多い。防除後も、新たな白変葉の発生を確認したら、追加防除を実施する。(平成 28 年 9 月 28 日付け病害虫発生予察注意報第 2 号参照) 2. カメムシ類 莢の伸長初期~子実肥大中期に防除を実施する。なお、圃場でカメムシ類が散見される場合には、7~10 日間隔で 2~3 回防除を行う。 3. 紫斑病 若莢期~子実肥大中期に防除を実施する。					
普通作 全般	特記事項 1. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチへの被害を回避するため、予め養蜂農家に農薬の散布時期や散布時間等を伝達するなどの対応を行う。 また、農薬の使用基準(収穫前日数等)を遵守する。				

作物名	病虫害名	10月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(本圃)	ハダニ類	やや多	多	205~206	 ハダニ類
	うどんこ病	並	並	195~197	
	アブラムシ類	多	多	210~211	
	特記事項 1. ハダニ類 一部の本圃で発生が認められる。有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後、天敵(カブリダニ類)を放飼して防除を行う。(平成28年8月31日付け病虫害対策資料第9号参照) 2. うどんこ病 新葉に発生が見られる本圃がある。果実での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。 3. アブラムシ類 一部の本圃で発生が多い。頂果房開花前までの防除を徹底する。 4. 次年産親株 次年度作での炭疽病、萎黄病等の発生を抑えるため、健全親株を確保する。特に、育苗期に発生が認められた本圃では全親株を優良原種苗等へ更新する。また、これらの親株についても秋季から炭疽病、うどんこ病及びハダニ類の防除を徹底する。				
キュウリ	べと病	やや少	並	175~176	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ病	やや少	並	173~174	
	褐斑病	やや少	やや少	178~179	
	アザミウマ類	やや多	やや多	187~188	
	コナジラミ類	やや多	やや多	186~187	
	特記事項 1. ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ、黄化えそ病、退緑黄化病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する(平成28年9月12日付け病虫害対策資料第11号参照)。 媒介虫の本圃内への侵入を防ぐため、施設開口部には防虫ネットを被覆する。なお、防虫ネットの破損がないか随時確認し、破損があれば補修する。 近年、薬剤感受性の低下により、媒介虫に対する薬剤の防除効果が十分に得られない場合も考えられるため、天敵(スワルスキーカブリダニ)を積極的に利用する(県特別栽培農産物認証制度に対応した総合防除体系HP http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00323290/index.html 参照)。 2. ワタヘリクロノメイガ 一部の本圃で発生が多く見られている。施設開口部に防虫ネットを被覆し、成虫の侵入を防止するとともに、早期発見と早期防除に努める。				
アスパラガス	褐斑病	並	並	318~319	 ハダニ類
	茎枯病	やや少	並	317~318	
	斑点病	やや多	並	318	
	アザミウマ類	多	並	321	
	ハダニ類	多	やや多	321~322	
特記事項 1. 褐斑病、斑点病、茎枯病 発病茎葉が次作の伝染源となるため、収穫終了後も薬剤防除を定期的に行う。					
タマネギ	特記事項 1. べと病 苗への感染を防ぐため、育苗期から定期的に薬剤防除を行う。				

作物名	病害虫名	10月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
ナス	アザミウマ類	並	やや多	238~239	
	コナジラミ類	やや多	多	239~240	
	ハモグリバエ類	やや多	多	240~240	
野菜・花き 共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ) (オオタバコガ)	多	多	160, 162 イチゴ：208~209 ナス：243~240 アスパカス：320, 323 キウイ：387~388	 ハスモンヨトウ
	特記事項 施設開口部に防虫ネットを被覆し、成虫の侵入を防止する。また、施設周縁部に遮断溝(中に水をためる)を設けて老齢幼虫の侵入を防ぐ。(平成28年9月28日付け病害虫発生予察注意報第2号参照)				
カンキツ	ミカンハダニ	やや多	多	239~242	
	チャノキアザミウマ	並	やや多	236~238	
特記事項 1. 果実腐敗対策 それぞれの品種の収穫時期にあわせて薬剤散布を行う。また、降雨時・結露時の収穫は避けるとともに、果実に傷をつけないよう丁寧に収穫を行う。日焼け果や裂果果実は収穫時に除去し、処分する。 2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来7日前~前日までに必ず薬剤散布を行う。 3. ミカンサビダニ 本種による新たな被害果の発生を認めた園では早急に防除を行う。					
ナシ	特記事項 1. 黒星病 翌年の伝染源を減らすため、収穫終了後も防除を徹底する。また、落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出して処分する。				
ブドウ	特記事項 1. ベと病・褐斑病 本病による早期落葉の防止及び園内の菌密度低下のため収穫終了後も防除を徹底する。また、落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出して処分する。				
キウイ フルーツ	特記事項 1. かいよう病 感染を防止するため、収穫終了後、銅水和剤を定期的に散布する。				
果樹 全般	果樹カメムシ類	多	多	かんキツ：245~248 ナシ：299 ブドウ：344 生態と防除：384~386	
		注意報第1号を参照			
特記事項 1. 果樹カメムシ類 園内をこまめに見回り、果樹カメムシ類を見つけた場合は、直ちに防除を実施する(平成28年9月8日付け病害虫発生予察注意報第1号参照)。 2. 夜蛾類 県内のナシ、カンキツやブドウ等において、成虫による果実被害が認められている。園内および園周辺のカミエビ、アケビ、ムベ等は幼虫の食草となるので除去する。また、忌避灯の点灯時間は日の出・日没の時刻に合わせて調整する。 3. ハスモンヨトウ 本年、県内に設置しているフェロモントラップの誘殺数が多く推移しており、ブドウ・カキで被害を認めている。各圃場で発生状況を確認し、卵塊や幼虫の発生を認めた場合は、薬剤散布を行う。					

作物名	病虫害名	10月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	並	並	380~381	 アザミウマ類
	アザミウマ類	多	多	384~385	
	アブラムシ類	やや多	多	386~387	
	ハダニ類	やや多	並	385~386	
	ハモグリバエ類	やや多	多	388~389	
	チョウ目害虫	多	多	387~388	
		注意報第2号を参照			
特記事項 1. アザミウマ類 一部でクロゲハナアザミウマの多発生圃場が認められる。圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期の防除を徹底するとともに、その後も発生が認められる圃場では定期的に防除を行う。 ミカンキイロアザミウマについては、キクえそ病・茎えそ病のウイルスを媒介するため、発生初期からの防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取る。 2. チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ) 野菜・花き共通項目 (P3) を参照。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

10月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する10月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成28年9月23日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における10月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (18.6℃)	50	高い
降水量	30	30 (75.5 mm)	40	並

Ⅲ. 10月の予報

水稻（普通期水稻）

（巡回調査日：9月14～16日）



巡回調査圃場の様子（普通期水稻）

1. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 1.8%（平年 15.2%、前年 0.8%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

(2) その他は、特記事項を参照する。

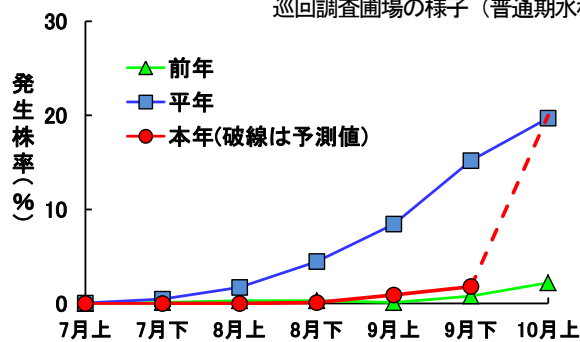


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

大豆

（巡回調査日：9月14～16日）



巡回調査圃場の様子（大豆）

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 7.8%（平年 4.9%、前年 7.3%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

②フェロモントラップ（図2参照）【県内9地点】

平年比：多（+）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 平成28年9月28日付け病害虫発生予察注意報第2号参照。

(2) その他は、特記事項を参照する。

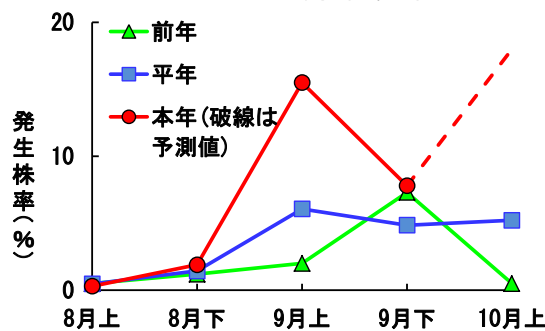


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

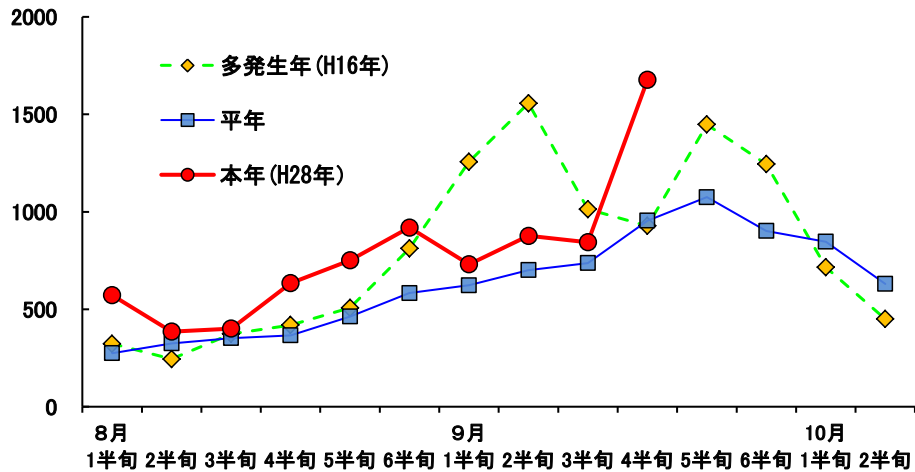


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
 (農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。)

2. カメムシ類 (アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 0.7% (平年 0.2%、前年 0.1%)

平年比：多 (+) 前年比：多 (+)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除を行う際は、薬剤が莢によくかかるように散布する。

(2) その他は、特記事項を参照する。

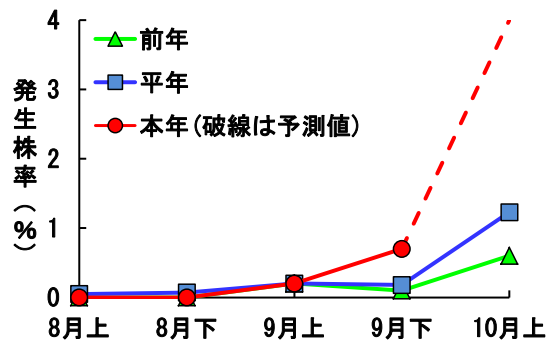


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

イチゴ (本圃)

(巡回調査 12 圃場、苗を調査
 調査日：9月14日～16日)



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 苗での発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：3.7% (平年 7.2%、前年 12.0%)

平年比：やや少 (-~±) 前年比：少 (-)

②病害虫防除員による調査 (6 圃場)

4 圃場で発生確認、発生株率は 8.0% (±)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

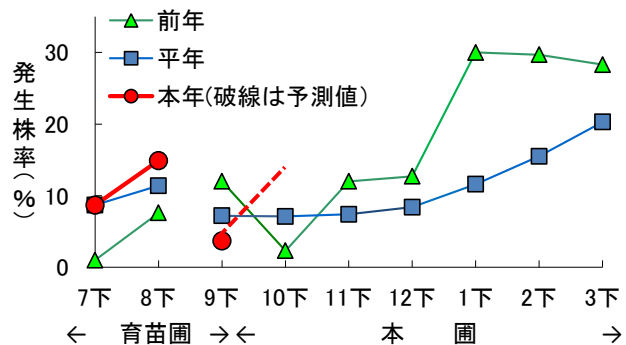


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 苗での発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：1.7%（平年3.0%、前年3.0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

発生を認めていない（〜±）

(2) 10月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

(2) その他については、特記事項参照。

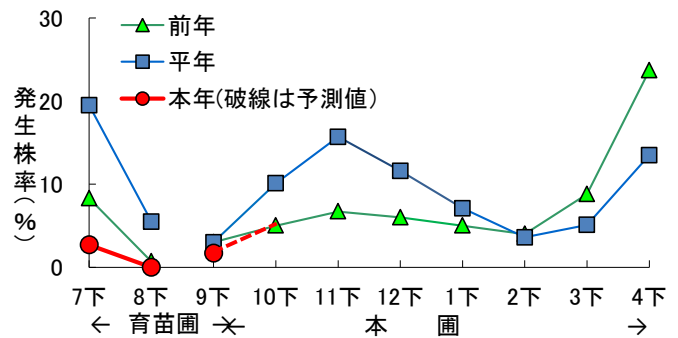


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 苗での発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：8.7%（平年1.1、前年2.8%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は5.3%（+）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

(2) その他については、特記事項参照。

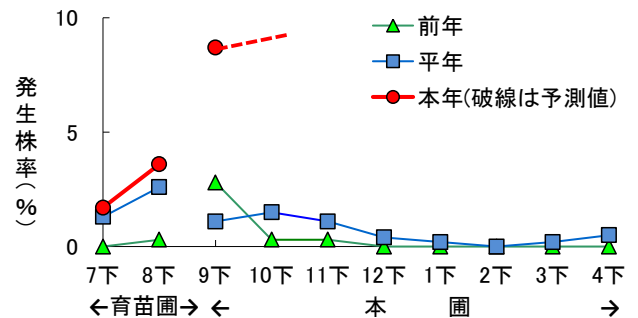


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

巡回調査（7圃場）

調査日：9月14～15日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.9%（平年6.9%、前年3.8%）

平年比：やや少（〜±） 前年比：並（±）

(2) 10月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。



巡回調査圃場の様子

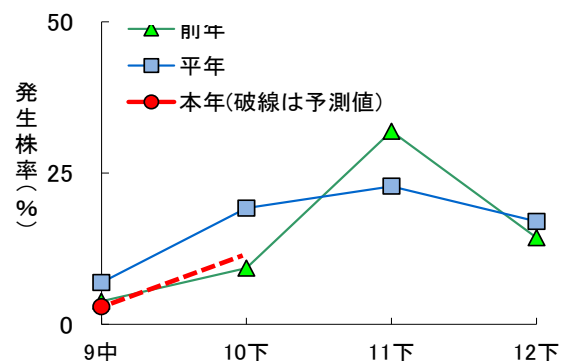


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0.7%（平年2.5%、前年0%）
平年比：やや少く（～±） 前年比：並（±）
 - ②10月の気象予報
気温が高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

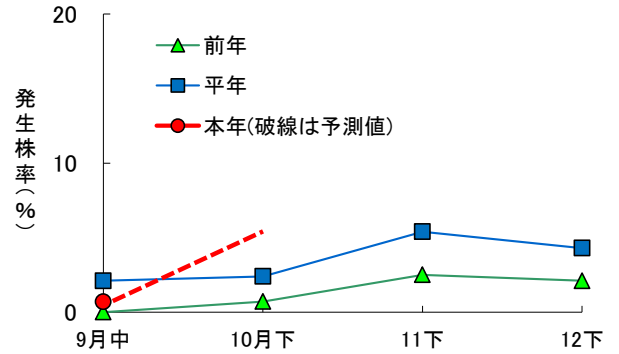


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0.7%（平年9.4%、前年1.3%）
平年比：やや少く（～±） 前年比：並（±）
 - ②10月の気象予報
気温が高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

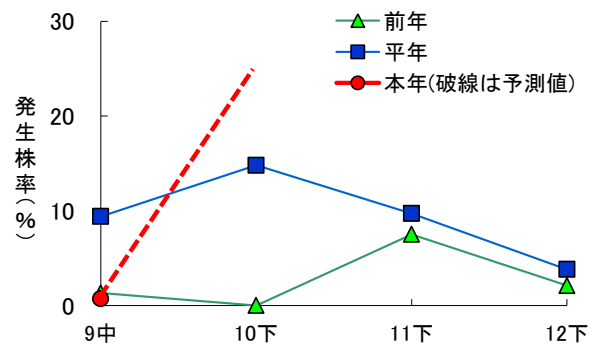


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

アスパラガス

巡回調査（8圃場）
調査日：9月14日～16日

1. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：39.4%（平年33.4%、前年46.3%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ②10月の気象予報
並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

2. 茎枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）

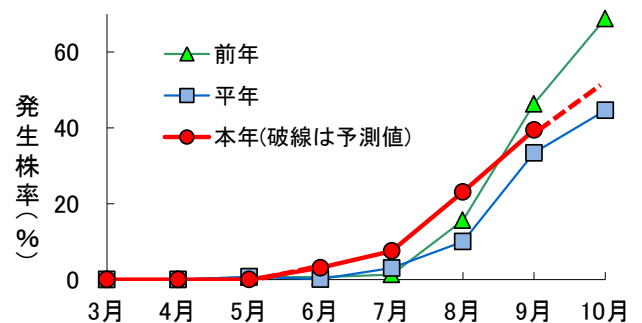


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：0.5% (平年1.6%、前年2.5%)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

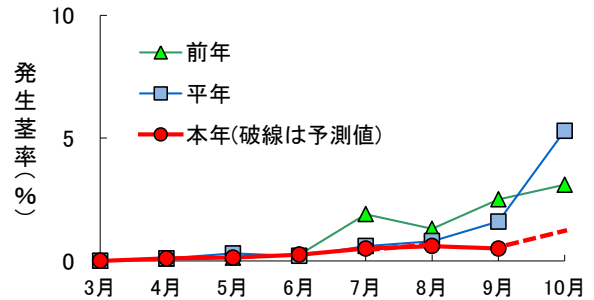


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

3. 斑点病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：15.0% (平年7.2%、前年29.4%)

平年比：やや多 (±~+) 前年比：やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

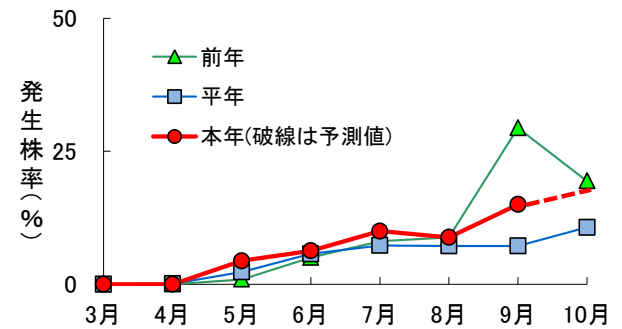


図1 アスパラガス斑点病の発生推移

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：28.1% (平年22.2%、前年12.5%)

平年比：並 (±) 前年比：やや多 (±~+)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

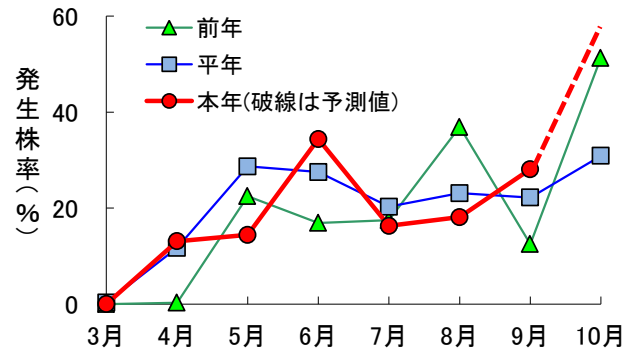


図1 アザミウマ類のアスパラガスでの発生推移

5. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：9.4% (平年5.8%、前年0.6%)

平年比：やや多 (±~+) 前年比：多 (+)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

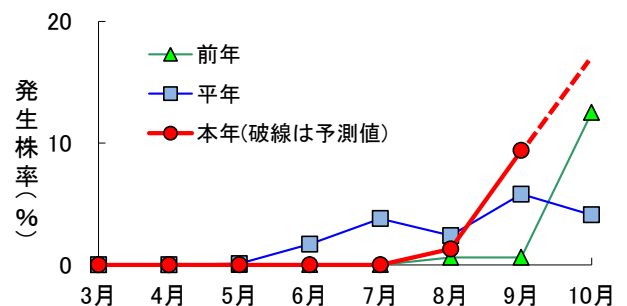


図1 ハダニ類のアスパラガスでの発生推移

ナス（促成）

巡回調査 9月15日



巡回調査圃場の様子(ナス)

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年11.3%、前年16.9%）

平年比：少（-） 前年比：少（-）

②病害虫防除員調査（4圃場）

発生株率：12.5%（±）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部を防虫ネットで被覆し、ハウスへの侵入を防止する。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

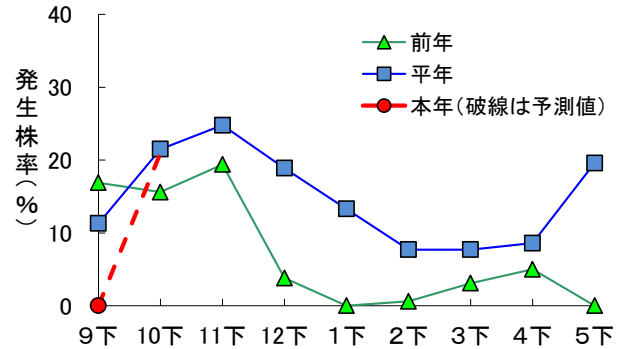


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率48.0%（平年62.3%、前年38.8%）

平年比：やや少（-~±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（4圃場）

発生株率：20.0%（-）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

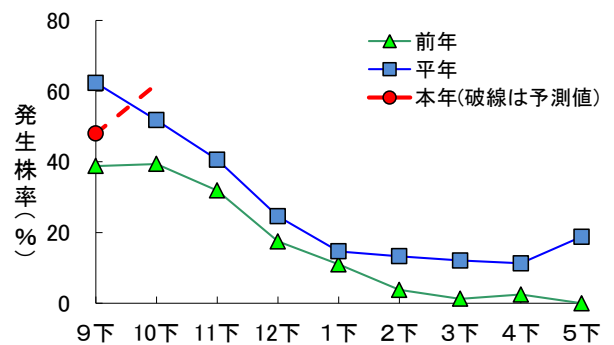


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

3. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

食害株率2.0%（平年13.8%、前年5.6%）

平年比：やや少（-~±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（4圃場）

発生株率：0%（-~±）

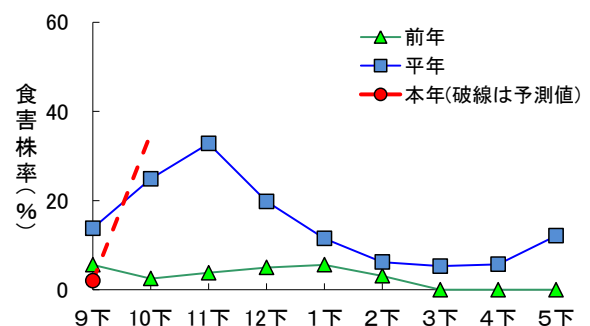


図1 ハモグリバエ類のナスでの食害株率の推移

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

野菜・花き共通

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、材バコガ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1～3参照）

イチゴにおける食害株率：0.3%（平年0.9%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

アスパラガスにおける食害株率：0%（平年3.9%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの9月の誘殺数は、平年よりやや多い～多く推移している（図3～4）。〈±～+〉

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 平成28年9月28日付け発生予察注意報第2号参照。

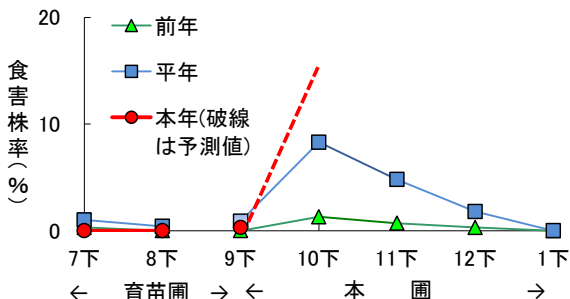


図1 チョウ目害虫によるイチゴの食害株率の推移

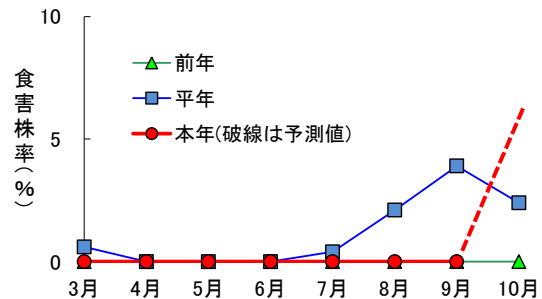


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの食害株率

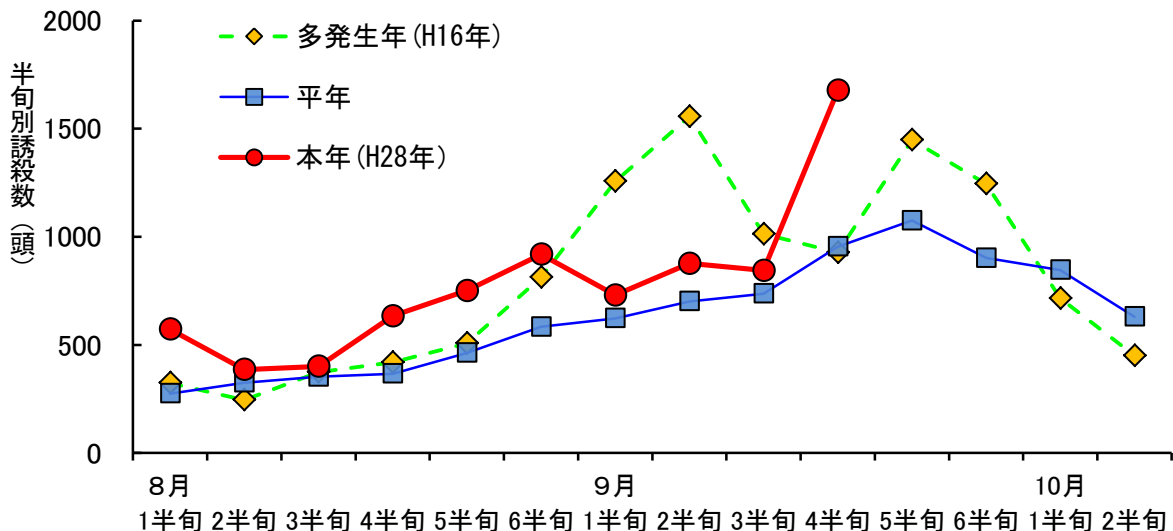


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数

（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。）

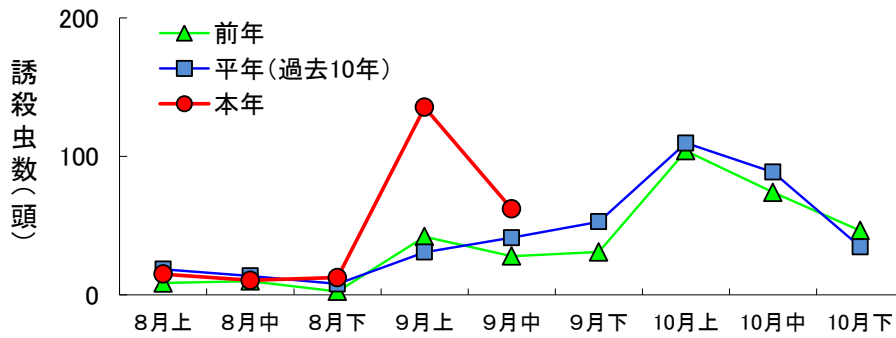


図4 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

カンキツ

巡回調査 (8圃場)
9月15~21日



巡回調査圃場の様子

1. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生葉率：1.0% (平年3.3%、前年0.9%)

平年比：やや少く(一~±) 前年比：並(±)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の散布とする。また、前年使用した殺ダニ剤は散布しない。
- (2) 低密度時(寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5~1頭)に薬剤散布を行う。

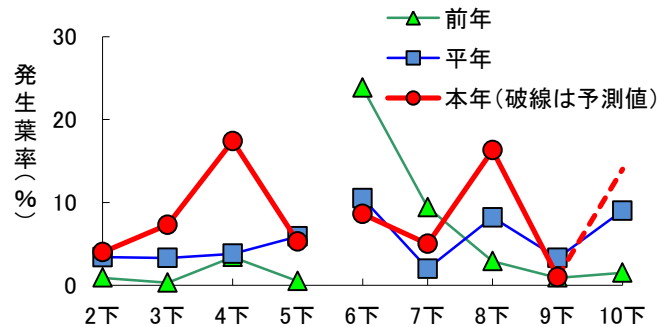


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①予察灯 (図1参照) 平年比：多(+) 前年比：多(+)

②ヒノキ毬果における寄生数 (表1参照、9月15~21日調査)

成幼虫数平均：10.8頭(平年6.5頭、前年0.9頭) 平年比：やや多(±~+) 前年比：多(+)

③ヒノキ毬果における口針鞘数 (表1参照、9月15~21日調査)

口針鞘数平均：22.1本/果(平年20.3本、前年12.0本)

平年比：並(±) 前年比：多(+)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くならないように剪定をする。
- (2) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (3) 県内各調査地点における誘殺状況の推移については、佐賀県農業技術防除センターHPの「[病害虫データ情報](#)」を参照する。
- (4) その他は特記事項を参照。

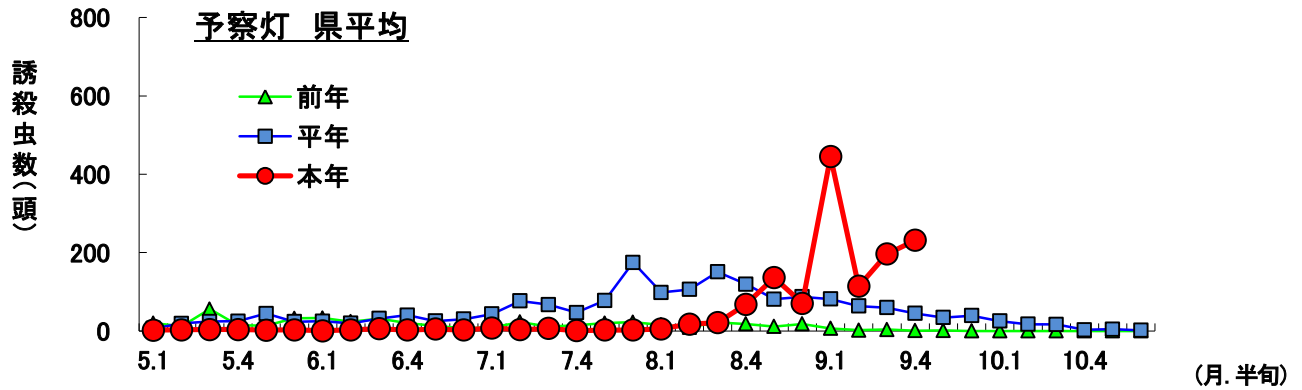


図1 予察灯（佐賀市※、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移
※佐賀市の5月～9月1半旬の間欠測

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況				口針鞘数調査 1) (寄生状況調査時にサンプル採取)		ヒノキ毬果 2) 着果程度 (7/15～21 調査)
		9月上旬 (9/5～6) 合計	9月下旬(9/15～21)			9月 上旬 (9/5～6調査)	9月 下旬 (9/15～21調査)	
			成虫	幼虫	合計			
1	上峰町※	-	-	-	-	-	極少	
2	神埼市	4	5	3	8	17.1	16.9	やや少
3	小城市	2	4	0	4	10.2	15.1	やや少
4	多久市※	-	-	-	-	-	-	極少
5	唐津市	5	10	11	21	12.8	15.7	中
6	伊万里市1	10	3	7	10	27.5	40.8	少
7	伊万里市2	16	6	2	8	28.8	38.9	やや多
8	伊万里市3※	-	-	-	-	-	-	極少
9	白石町	15	11	1	12	26.4	29.7	中
10	鹿島市1	5	3	3	6	6.6	11.7	中
11	鹿島市2	6	10	10	20	26.7	22.9	中
12	鹿島市3	7	4	0	4	8.1	11.4	中
13	太良町1	17	3	15	18	16.9	15.3	やや少
14	太良町2	6	2	6	8	14.5	24.7	少
	平均	8.3	5.5	5.3	10.8	17.8	22.1	-
	平年	9.1	-	-	6.5	17.1	20.3	-
	前年(H27年)	1.4	-	-	0.9	11.9	12.0	-

※3地点についてはヒノキ毬果量が少なく、ヒノキ毬果の着果程度のみ調査した。

1)口針鞘数が1果当たり25本を超えると、ヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向にある。

2)ヒノキ毬果着果程度：福岡総農試の達観調査法（一部改変）に基づいて調査（下記区分）

- ・極少：ほとんど結実が見あたらない 少：梢頭部にわずかに結実 やや少：梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中：梢頭部から中央部付近にかけて結実 やや多：梢頭部から最下部にかけて全的に結実した樹と全的に結実しない樹が混在
- ・多：梢頭部から最下部にかけて全的に結実 極多：梢頭部から最下部にかけて全的にブドウ状に結実

キク

巡回調査 9月15日~21日



巡回調査圃場の様子(キク)

1. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 12.9% (平年 3.6%、前年 7.8%)

平年比：多<+> 前年比：やや多<±~+>

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は葉裏に寄生していることが多いため、葉裏にも薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 生息源となる圃場周辺の雑草を除去する。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

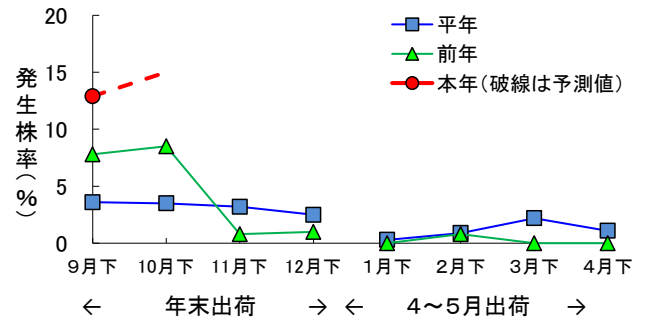


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

2. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 0.2%、前年 0%)

平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防虫ネットを用いて有翅虫のハウスへの侵入を防止する。
- (2) 生息源となる圃場周辺の雑草を除去する。

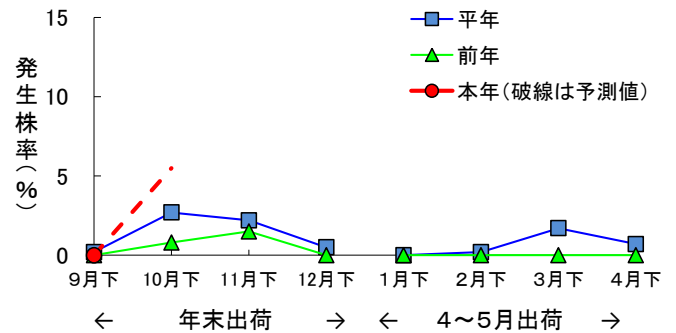


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査

発生株率 0.3% (平年 3.6%、前年 0.8%)

平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件<+>

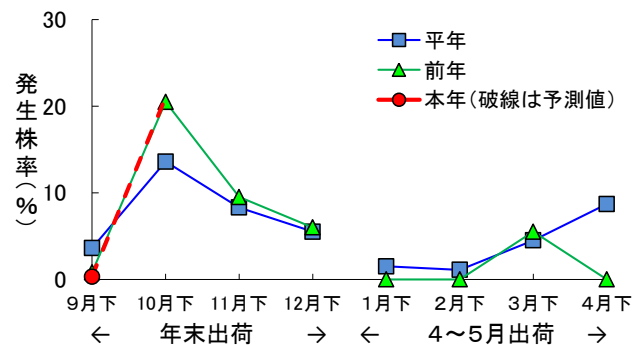


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

食害株率0%（平年6.6%、前年0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防虫ネットを用いてハウスへの侵入を防止する。
- (2) 生息源となる圃場周辺の雑草を除去する。

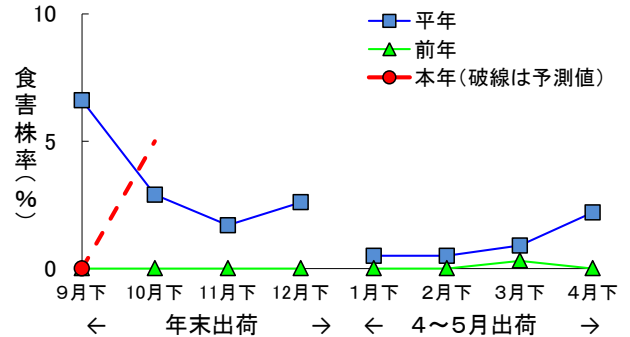


図1 ハモグリバエ類のキクでの食害株率の推移

5. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率0%（平年0.8%、前年0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

②フェロモントラップによる誘殺数等

野菜・花き共通の項目参照（P12）。〈+〉

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 平成28年9月28日付け発生予察注意報第2号参照。
- (2) その他については特記事項を参照。

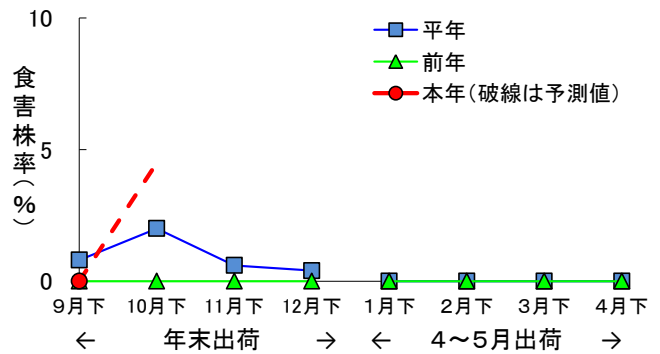


図1 チョウ目害虫のキクでの食害株率の推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に8月26日～9月23日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
水稲	トビイロウンカ	9/8	鹿児島県		
野菜類、花き類 及び大豆	ハスモンヨトウ	9/1	山口県	8/25	広島県
				8/30	滋賀県
				8/31	三重県
				9/2	徳島県
				9/6	香川県
				9/7	岡山県
		9/15	岐阜県		
		9/15	愛媛県		
野菜類、大豆	ハスモンヨトウ			9/16	京都府
野菜類、花き類	タバコガ類			9/6	香川県
ネギ、アスパラ ガス、キク、カ ーネーション など	シロイチモジヨ トウ			9/6	香川県
ネギ	シロイチモジヨ トウ			9/16	京都府
いちご	炭疽病	9/1	長崎県		
いちご	ハダニ類	9/1	長崎県		
果樹全般	果樹カメムシ類	9/8	佐賀県		
モモ	せん孔細菌病			8/31	和歌山県

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元
野菜	スイカ	スイカ炭腐病、スイカ黒点根腐病	8/26 新潟県
果樹	ブルーベリー	ブルーベリータマバエ（仮称）	9/2 愛知県
	ビワ	ビワキジラミ	9/7 香川県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

- ◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。
- ◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。
- ◎防除器具は十分洗浄しましょう。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi jutsu@pref. saga. lg. jp